

住民主体で福祉のまちづくりを推進する情報交流紙です☒

よつ葉のクローバー KIKUSUI

No.13 2008.9.25



福まち通信

菊水福祉のまち推進センター運営委員会
札幌市白石区菊水6条4丁目3-10
電話 011-887-7006 FAX011-887-7006

今年も共同募金が始まります



10月1日から12月31日までの3ヶ月間、日本中で「赤い羽根」でご存知の共同募金活動が始まります。

戦後まもなくの昭和22年に始まった共同募金は今年で62回目を迎えますが、何もかもが欠乏していたあの当時、福祉施設の復興や戦争孤児や生活困窮者の救済のために始まった共同募金の印象が、今でも根強く人々の心を捉え続けています。今日、それらの仕事

は何も募金に頼らなくても、当然税金で行われているのではないのか…、という声が聞こえてきます。平成12年にそれまでの「社会福祉事業法」が「社会福祉法」に改正され、「地域福祉の推進」が福祉の柱になり、共同募金の目的もそれに変わってきたことは余り知られていないのです。

共同募金は私たちのところに帰ってくる☒

私たちが赤い羽根に募金した大部分は、また私たちの福祉のまちづくり活動の資金として戻ってきているのです。この「よつ葉のクローバー」も、「高齢者ふれあい交流会」も、「どんぐりころころ・プリンプリンなどの子育て支援事業」も、そのお金で行われているのを、改めてお知らせしておきます。そうです、貴方が共同募金に100円入れたとしますと、そのうち50円が地域に戻ってきているのです。障害者や高齢者、児童支援を含めると実に65円が戻ってきていることを覚えておいて下さい。

去年、札幌市での共同募金の実績は約1億2千万円でした。

その配分は、地域福祉に約6千万円でしたし、その他の障害者・老人・児童の支援事業を加えると約8千万円でした。このことでお分かりのように、共同募金は自分たちの地域の福祉のために「行われ」「使われて」いるのです。誰もが安心して住める地域を作るために、今年も赤い羽根を胸に飾り、一人ひとりがまちづくりの意思を示しましょう。



地域の福祉を支えます。



「共同募金は、お金のやり取りの心を集めてこそ意義がある。」

2008 札幌市共同募金会

福祉のお仲間訪問

菊水地区には、福祉に関するいろいろな社会資源があり、それらの一つひとつに福祉のために頑張っているお仲間がいます。第12号では障がい者福祉施設をご紹介しましたが、今回は地域で活躍している老人クラブをご紹介します。

老人クラブ活動の沿革と会の目的☒

概ね60歳以上の人たちがグループを組織し、定期的に活動している任意団体です。戦後、婦人会の援助による敬老会から発展的に変化して





誕生してきました。札幌では、昭和30年9月西区に山の手寿楽会が誕生したのが最初ようです。白石区では昭和34年5月に「白石福寿会」が誕生していますし、その2年後に「菊水はまなすクラブ」が誕生しています。今では札幌市内に480のクラブが存在し、白石区には36のクラブ(会員数2,987人)があります。現在、菊水地区には六つのクラブが活動を続けています。

老人クラブでは、「健康づくり」「社会奉仕」「友愛訪問」などを主な目的として活動していますが、このほかに生活を豊かにする「趣味・文化・レクリエーション活動」、「地域の文化・芸能・民芸・手工芸などの伝承活動」、「子どもや青少年との世代間交流」などにも取り組んでいます。

菊水親老クラブ☒

昭和44年4月に結成されたこのクラブは69名の登録会員を有し、毎週月曜日に菊水地区会館で例会を開いています。

お訪ねした日はご都合の悪い方が多かったのか、25人ぐらいの出席でしたが、皆さんお元気で体操から始まりました。松柳隆司会長(81歳)から会の活動状況をうかがいました。会員は菊水の方だけと思っておりましたが、東区や菊水元町の方もおられ、遠く真駒内から通ってくる方もいらっしゃるそうです。



会費は年間1500円ですが、総会、新年・忘年会、敬老会、供養会には特別会費を負担してもらっています。

例会の内容は、体操、輪踊り、歌唱、囲碁・将棋などで午後3時頃まで続きます。例会のほかに施設訪問や共同募金活動も行っており、向かいの市立幼稚園のもちつき大会に参加し、合い取りや子どもの着付け



の手伝いをします。一番人気のある行事は、春秋2回の二泊三日の旅行と、年一回の日帰り旅行です。宿泊温泉旅行には25名程度ですが、日帰り旅行になると40名以上の参加があります。

「お世話するのは大変なのですが、皆さん本当に嬉しそうにされているのを見ますとやりがいがあります。」と副会長の市川美紀子さんは楽しそうに話してくださいました。(枝元編集員)

菊水東町老人クラブ紅葉会☒

お尋ねした日は、この会の特別行事である「長寿を祝う会」の日でした。東町福社会館2階の和室には30名を超える会員の方々が集まり、手作りの料理とお酒で喜寿2名米寿2名の方を囲みお互いの長寿を祝っておられました。この会は昭和37年に四つ葉婦人会の協力によって32名の会員で発足しま



した。その翌年に当時の会長である宮村清二氏が、この会の名前の由来であります「年老いても真紅に燃え、落葉となって次の世代のよき芽を育てる土壌になれば」との思いをこめた会旗を作られました。この旗は今でも大切に保存されています。

会長は小田誠一さんで、登録会員は61名、会費は年1500円です。毎週金曜日が例会日で、菊水6条4丁目の前記福祉会館に毎回20名を超える程度の会員が集まっています。囲碁・将棋やマーじゃん、時にはカラオケなどを楽しんでいるそうです。特別事業として、忘・新年会、長寿を祝う会、追悼会、誕生会のほかに、年2回の一泊旅行会やパークゴルフ大会などの企画を行っています。



社会参加事業として公園の清掃や交通安全運動参加、共同募金街頭募金活動参加などを行い、世代間交流事業として小学校児童との交流活動も行っているそうです。

小田会長さんは、「クラブ活動を通じて、会員各自が仲間意識を高め、和気あいあいの会にしていきたい」と、抱負を語っておられました。

(関口編集員)

菊水西町はまなすクラブ☒

この会が誕生したのは、前出のとおり昭和36年2月で、菊水では一番、白石区の中でも2番目の発足でした。最初は菊水5条2丁目青葉保育園の2階にある菊水西町集会所で行っていましたが、現在は菊水7条2丁目の菊水地区会館で行っています。

例会は毎週金曜日の午前10時から午後2時まで行っています。会費は年2,000円で、現在50名の登録会員がおられます。

例会にお邪魔して、この会の三代目の会



長である新田俊治さんにいろいろお訊ねしました。例会は市民憲章の斉唱で始まります。健康体操で体をほぐした後は週によっていろいろ工夫していますが、麻雀、カラオケ、舞踊などが定番になっています。この日はカラオケの日で、午後から二階の広間で20人近い会員が歌っていました。それはそれは楽しそうに編集子も引き込まれそうになりました。

特別事業としては、新年会、総会、敬老会、旅行会などを行っています。旅行会は皆さん楽しみにしていて、二泊三日で道内の温泉地を訪ねています。社会参加事業としては、公園の清掃や友愛訪問を行っています。

新田会長さんは、「クラブにはいろいろな人生経験を重ねてきた方がおられるので、それらの人たちにそれぞれの気配りをしています。皆さん高齢なので体の調子にも気をつけて事故の無いように努めています」と、話されます。

(折原編集委員)

菊水北町菊栄会☒

昭和41年3月に誕生したこの会は、現在54名の登録会員を擁し、菊水地区会館で毎週水曜日午前10時30分から午後2時まで例会を開いています。会費は年2,000円で





すが、特別行事の場合は応分の会費徴収があります。

この会の例会の様子は前出のクラブとほぼ同じですが、毎月街頭での交通安全啓発や生活道路の清掃活動を行っていることが特徴だといえます。特別行事も多彩で、忘・新年会、総会、慰霊祭、敬老会のほかに、誕生会を年 2 回食事会を年 6 回、変わったところでは歩こう会も行っています。

会長の高橋直利さんは、「会員相互の信頼を深めて、元気で明るい毎日を過ごせるようクラブの運営に当たっていききたい」と抱負を語ってくださいました。(折原編集委員)



お断り ☒

菊水地区の老人クラブは、上記のほかに「菊水南町やよい会」と「菊水上町楽生会」の 2 団体がありますが、それぞれご都合がつかず、今回取材ができませんでした。近いうちにお伺いし、次号以降の紙面でご紹介したいと思っています。



「福まち発」地域福祉市民活動フォーラム



9 月 18 日(木)午後 1 時半から、中央区大通西 19 丁目札幌市社会福祉総合センターの大研修室に全市から 400 人近い関係者が集まり、毎年行われている標記フォーラムが行われました。今年のフォーラムは、戦後のベビーブームで生まれた大勢の団塊の世代が定年退職し、職業人から地域人に戻ってくることを踏まえ、これらの人たちを福祉まちづくりの人的資源として、どう迎えていくかがテーマでした。

中田副市長と末広社協常務理事の挨拶で始まり、基調講演を広島文教女子大学の蛭江教授が行いました。「団塊の世代を地域で迎える際の視点と活動方法」という演題で、自ら実践してきた「壮年の会」の実践活動を通じて体験してきた事例を基に話されました。



老年期は準備して向えるもので、その際、「こうあるべき」というマニュアルは存在しない。自らが主体的に考え具体的目標を立てて行動するような機会を提供することが重要だ。地域に目を向けてもらい、自分の問題として沢山の人たちと話し合う場を提供しなければならない…など、有益なお話でした。



最後に、福まち活動の実践報告が次の 3 団体からありました。
①東区栄東地区、②手稲区星置地区、③NPO 法人ナルク札幌中央
福まち活動パネル展

9 月 16 日から一週間、地下街オーロラタウンで福まち活動パネル展が行われました。

福まち通信



各種の福まち活動の写真が展示されましたが、広報・PR 活動の一例として、私たち菊水地区の福まち通信「よつ葉のクローバー」No.11 号が、他の 3 紙とともに展示されました。これからもこの期待に背かぬよう、紙面の充実に努めます

編集後記 ようやく秋らしくなってきました。皆様いかがお過ごしでしょうか。13 号は老人クラブ特集といたしました。戦後札幌に生まれた老人クラブは、今年で 53 年目になります。何事も永く続けることに意味があります。福まち通信もこうありたいと願っています。(枝元編集員)